

コロナ禍における大学等の eラーニングへの取り組みについて

勝 眞 一 郎¹

1. はじめに

日本国内において新型コロナウイルスは 2020 年初頭から感染拡大が始まり、学校の新学期を迎える 4 月には第一波と呼ばれる感染者数がピークを迎えた。2020 年 4 月 7 日には東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の 7 都府県に政府が緊急事態宣言を行い、続く 4 月 16 日には対象を全国に拡大した。

国内の各大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）を所掌する文部科学省は、2020 年 1 月 24 日という早い時期から大学等へ新型コロナウイルスに関する情報発信を行い、教育の継続をするための指導を行ってきた。

本稿では、最も網羅的に調査がなされているという観点から、文部科学省高等教育局が大学へ向けて発信した 2020 年 1 月 24 日から 2020 年 12 月 23 日までの 28 通の通知及び事務連絡¹⁾資料として、大学等の対面授業ができないことを補うための遠隔授業（以下「eラーニング」という。）への取り組みがどのように変遷してきたのかを観察する。

2. 文部科学省の通学制の大学等における対面についての考え方

大学等においては、大学設置基準に基づき大学の設置申請がなされ、その申請通りに大学運営がなされているかの確認がされている。通学制の大学等の対面の重要性については、以下の通達にその考え方が現れている。

「この際、大学等における教育は、オンライン等を通じた遠隔授業の実施のみで全てが完結するものではなく、豊かな人間性を涵養する上で、直接の対面による学生同士や学生と教職員の間の人的な交流等も重要な要素であることにも御留意いただきつつ、学生への学修機会を提供する観点から、具体的には、以下に掲げる事項を踏まえ、本年度後期等における授業の実施方法や形態等について、適切に御判断をいただくようお願いします。」²⁾

また、後に示す 9 月のアンケート結果¹⁰⁾を受けて、「なお、各大学等の協力を得て文部科

¹ サイバー大学 IT 総合学部・教授

学省において実施した本年度後期等の授業の実施方針等に関する調査の結果では、全国の大学等のほとんど全てが、感染対策を講じた上で全面的に面接授業を実施するか、又は面接授業と遠隔授業を併用する方針となっており、全面的に遠隔授業を用いる予定の大学等のごく少数となっています（別添参照）。²⁾として、対策を講じたうえで対面授業の積極推進を指示している³⁾。

3. 対応初期のeラーニングの導入状況

コロナ禍においては、対面での授業は重視するものの感染症拡大防止のためには、構内への入場を制限し一部eラーニングを採用しなくては授業が進まない事態となった。

2020年4月と5月においては、新学期がスタートした段階であり、文部科学省は各大学がどれくらいeラーニングを導入しているかをアンケート調査している。

4月23日の調査⁴⁾においては、全体で478の教育機関がeラーニングを授業として取り入れ、検討中を含めると全体の98.6%の機関で実施または検討する方針となっていた（表1参照）。各機関ともかなりのスピードでeラーニング環境の準備を行い、実施に踏み切っていたことがわかる。

表1. 遠隔授業の活用に関する検討状況について(4月23日時点)

	遠隔授業を実施する	検討中	実施予定はない	計
国立大学	54	21	0	75
公立大学	33	39	0	72
私立大学	360	230	11	601
高等専門学校	31	25	0	56
(全体)	478	315	11	804
構成比	98.6%		1.4%	100.0%

データ出所：「新型コロナウイルス感染症対策に関する大学等の対応状況について」中の「2. 遠隔授業の活用に関する検討状況について」⁴⁾のデータから再作成

さらに、5月12日の調査⁵⁾では708の教育機関が採用する（表2参照）など、事態の長期化を見据えてほぼすべての通学制の大学等がeラーニングを授業に取り入れたことが分かる。

コロナ禍における大学等のeラーニングへの取り組みについて

表2. 遠隔授業の活用に関する検討状況について(5月12日時点)

	遠隔授業を実施する	検討中	実施予定はない	計
国立大学	71	15	0	86
公立大学	58	43	0	101
私立大学	536	254	12	802
高等専門学校	43	14	0	57
(全体)	708	326	12	1046
構成比	98.9%		1.1%	100.0%

データ出所:「新型コロナウイルス感染症対策に関する大学等の対応状況について」中の「2. 遠隔授業の活用に関する検討状況について」⁵⁾のデータから再作成

eラーニング導入が加速したことは、別のデータによっても裏付けられる。2020年3月30日に立ち上がった、ソーシャルメディア Facebook の「新型コロナのインパクトを受け、大学教員は何をすべきか、何をしたいかについて知恵と情報を共有するグループ」⁶⁾という公開グループは、各大学の教職員が大学運営についての意見交換を行っている。4月から6月の間は、eラーニングについてのトピックカテゴリに対する意見交換が最も多くの割合を占めた。なお、このグループは12月末時点で2.1万人が参加する巨大な公開グループになっている。

4. eラーニングと対面の併用がニューノーマルに

非常事態宣言が5月25日に解除されたのを受け、大学等でもeラーニングと対面の併用運用がニューノーマル(新しい日常)になった。その中でも、感染者の増減により各機関がフレキシブルに対応していることが文部科学省の調査で分かる。

5月20日時点の調査⁷⁾では、緊急事態宣言の最中であるため、遠隔授業のみの機関が全体の90.0%(778校)を占めた(表3参照)。

表3. 5月20日時点における授業の実施方法について

	対面のみ	対面と遠隔の併用	遠隔のみ	計
国立大学	0	8	78	86
公立大学	0	7	76	83
私立大学	26	44	568	638
高等専門学校	1	0	56	57
(全体)	27	59	778	864
構成比	3.1%	6.8%	90.0%	100.0%

データ出所：「新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況」中の「2.5月20日(水)時点における授業の実施方法について」⁷⁾のデータから再作成

その後、6月1日になると、遠隔授業のみは60.1%まで減少し、対面と遠隔の併用が増えてきている(表4参照)⁸⁾。

表4. 6月1日時点における授業の実施方法について

	対面のみ	対面と遠隔の併用	遠隔のみ	計
国立大学	0	23	63	86
公立大学	5	29	66	100
私立大学	96	256	471	823
高等専門学校	2	14	41	57
(全体)	103	322	641	1066
構成比	9.7%	30.2%	60.1%	100.0%

データ出所：「新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況」中の「2.6月1日(月)時点における授業の実施方法について」⁸⁾のデータから再作成

さらに7月1日になると、遠隔授業のみは23.8%まで減少し、逆に対面のみ機関が173校にまで増えている(表5参照)⁹⁾。

コロナ禍における大学等のeラーニングへの取り組みについて

表5. 7月1日時点における授業の実施方法について

	対面のみ	対面と遠隔の併用	遠隔のみ	計
国立大学	1	55	30	86
公立大学	8	72	22	102
私立大学	145	492	187	824
高等専門学校	19	23	15	57
(全体)	173	642	254	1069
構成比	16.2%	60.1%	23.8%	100.0%

データ出所：「新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況」中の「2.7月1日(水)時点における授業の実施方法について」⁹⁾のデータから再作成

今回の調査期間で最終となる8月25日から9月11日に行われた調査¹⁰⁾では、かなりの数が対面授業を復活させている様子が分かる(表6参照)。

表6. 9月11日時点における授業の実施方法について

	対面のみ	対面と遠隔の併用	その他	計
国立大学	3	83	0	86
公立大学	10	91	1	102
私立大学	160	650	5	815
高等専門学校	32	25	0	57
(全体)	205	849	6	1060
構成比	19.3%	80.1%	0.6%	100.0%

*その他の内、全面的に遠隔授業を実施するものは1校のみ

データ出所：「大学における後期等の授業の実施方針等に関する調査結果」中の「1.令和2年度後期における授業の実施方針について」¹⁰⁾のデータから再作成

文部科学省は、9月の調査¹⁰⁾において、対面と遠隔を併用している大学等に対して、対面授業に比率も調査している。

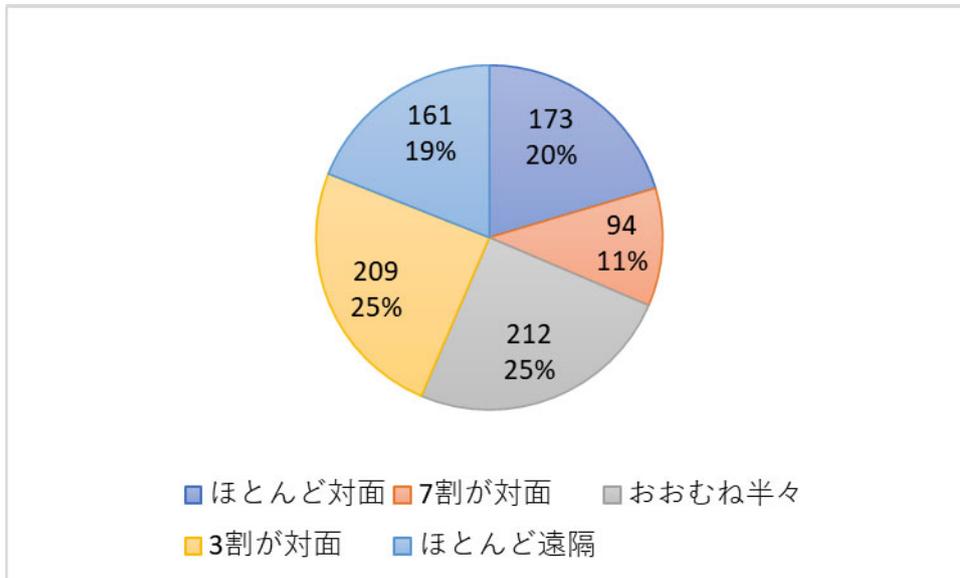


図1. 対面と遠隔を併用している場合の対面の比率(9月11日時点)

データ出所:「大学における後期等の授業の実施方針等に関する調査結果」中の「3.対面・遠隔授業の割合について」¹⁰⁾のデータから再作成

この時点で、対面授業の比率が「3割(209校)」と「ほとんど遠隔(161校)」としている計370校と追加7校の大学等に関しては(図1参照)、10月20日時点の状況について再調査¹¹⁾をかけ、4校が「対面授業のみ」に186校が「5割以上対面授業」になっていることを確認している(1校は「遠隔授業のみ」に移行)。

5. まとめ

現在は、感染症対策の一環として危機回避的に採用されているeラーニングであるが、本稿において見てきたように確実に大学等でのeラーニング環境は導入と試験的利用は進んでいることがわかった。

また、対面授業とeラーニングの併用運用が多く大学の等で行われ、感染状況に応じて割合を柔軟に変えていることもわかった。

今後は、各機関でeラーニングの利用に関する経験に基づくノウハウを共有し、授業のネット配信というレベルから、授業コンテンツの共有化や反転学習への適用など教育全体としての高度化にeラーニングが資することを期待している。

コロナ禍における大学等のeラーニングへの取り組みについて

注および参考文献

- 1) 文部科学省「大学・大学院・高専に関する情報：大学・大学院・高専について」のうち「全体について」
https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00016.html (2020/12/1 確認)
- 2) 文部科学省「大学等における本年度後期等の授業の実施と新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について(周知)」 令和2年9月15日付 「別紙」
https://www.mext.go.jp/content/20200916-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf (2020/12/1 確認)
- 3) 文部科学省の文書では、「面接」と「対面」という言葉が同様の意味合いで混在しているが、本稿では「対面」を採用する。
- 4) 文部科学省「新型コロナウイルス感染症対策に関する大学等の対応状況について」 令和2年4月24日付 https://www.mext.go.jp/content/20200424-mxt_kouhou01-000004520_10.pdf (2020/12/1 確認)
- 5) 文部科学省「新型コロナウイルス感染症対策に関する大学等の対応状況について」 令和2年5月13日付 https://www.mext.go.jp/content/20200513-mxt_kouhou01-000004520_3.pdf (2020/12/1 確認)
- 6) 「新型コロナのインパクトを受け、大学教員は何をすべきか、何をしたいかについて知恵と情報を共有するグループ」の「4.3 授業方法」が人気のトピックとしてランキングされている
<https://www.facebook.com/groups/146940180042907/> (2020/12/1 確認)
- 7) 文部科学省「新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況」 令和2年5月27日付 https://www.mext.go.jp/content/20200527-mxt_kouhou01-000004520_3.pdf (2020/12/1 確認)
- 8) 文部科学省「新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況」 令和2年6月5日付 https://www.mext.go.jp/content/20200605-mxt_kouhou01-000004520_6.pdf (2020/12/1 確認)
- 9) 文部科学省「新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況」 令和2年7月17日付 https://www.mext.go.jp/content/20200717-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf (2020/12/1 確認)
- 10) 文部科学省「大学等における後期授業の実施方針の調査について」 令和2年9月15日付
https://www.mext.go.jp/content/20200915-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf (2020/12/1 確認)
- 11) 文部科学省「大学等における後期等の授業の実施状況に関する調査」 令和2年12月23日付
https://www.mext.go.jp/content/20201223-mxt_kouhou01-000004520_01.pdf (2020/12/1 確認)